

# トレンド提言

## 2016年の夏におもう

異常なのは気象だけでなく、政治も経済も不安定、不確実性が続いている。

日本列島では九州など西日本地方は豪雨洪水、土砂崩れ、東日本、関東地方では給水制限も。資本と人口の一極集中で東京の水の使用量は1964年の東京オリンピック開催時の3.5倍にもなっているという。

7月に実施された都知事選ではどの候補者からも日本列島改造策についての提言はみられなかった。

保育などの子育て問題、高齢社会の進行に伴う医療、介護の難題についても後追いの施策だけにとどまるのではなく、何故このような事態となったかについての根本的な原因解明と政策こそが都政の柱でなくてはならないのではないか。

今月は終戦から71年目の夏、原爆が投下された唯一の体験を持つわが国は核保有国に対して積極的な核廃止を求めなければならない。

生前退位を望まれている天皇陛下が近年強調されたのは平和の大切さだが、政治の動きは憲法改正による戦争への道に進もうとしている。

経済とは本来「経世済民」（国を治め、民を救う）だが現状ではマネーゲームの競争に陥っているようだ。

この流れはオリンピックスポーツ界にも利権あさりとなって顕在化している。

FIFA（国際サッカー連盟）の汚職、ロシアのオリンピック選手への組織的ドーピング問題、わが国ではオリンピック会場の建設等にかかる不透明さなどである。オリンピックは相も変わらず国威発揚の場となっている。オリンピックの主人公は個々の選手の筈であることは忘れられていないか。

懸念されるのは世界の潮流が「強いアメリカ」（米国大統領選トランプ候補）にみられるように「多様化」を力で抑圧する勢力の台頭である。つまり民主主義の形骸化が進んでいることである。

先般、毎年開かれるベルリン・フィルの野外コンサートをTVで観たが、オーケストラは数十種の楽器のそれぞれの特性を活かして見事なハーモニーを演奏する。

作曲家と指揮者の偉大さにあらためて感服した。正に多様化の統合である。現代政治家はこの古典に学ぶべきだ。

甲子園球児の健やかで熱烈プレーは忍耐力と勇気、かばい合い助け合い、協働協力することの大切さを教えてくれた。

## 特 集

### CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任についての国際交流 ーベトナム貿易大学 CSR 研修についてー

#### 来日の経緯

去る7月、ベトナム貿易大学との CSR 研修団を招聘した。彼等の行動には夢があり若さあり、向上心があふれていた。新興国らしい息吹があった。

以下、今回の事業を特集として紹介したい。

わが国経済産業の展開は ASEAN 諸国等新興国の近代化に伴いインフラ整備はじめ、各種プラント整備・技術のパッケージによる諸国への協力が求められている。とりわけベトナムは、インドシナ半島最大の人口を有しており、かつ平均年齢の若さなどからも、今後の堅実な消費市場の拡大が期待されている。また、豊富な労働力とわが国との長い友好の歴史などから既に早い時期から日本企業の進出が進んでおり、中国やインドシナ半島各国と至近距離でのリンケージを有する地政学的メリットもあり、今後もますます日本企業の進出・投資の拡大が見込まれる有望な市場である。

当センターは2013年11月ベトナム中央経済管理研究所 (CIEM) を訪問、14年には CIEM CSR 研修のための招聘、15年にはベトナムにおける CSR 研修参加等を重ね、健全な市場経済構築のため CSR、ISO の重要性について共通認識を得ることができた。以上の経過と実績のもとでこのたびベトナム貿易大学が日本企業に大きな関心を持ち、日本企業の CSR 活動を研修したい旨の要請を寄せられた。

当センターとしてはその意義を尊重し、今回の来日となった。

貿易大学 CSR 研修メンバーと関西電力、大阪ガスの皆さま (2016.7.18)



## 一般社団法人くらしのサーチセンターと 貿易大学との相互交流に関する協定

くらしのサーチセンターと貿易大学は企業の持続的発展と市場経済の健全な進展を構築するためには CSR (Corporate social responsibility: 企業の社会的責任) 活動が大切であることについて共通の認識を持つ。

これを将来において進展させるためには産学協同 (企業産業界と大学、学生との協同) の活動が意義あるものと認める。

以上の趣旨 (目的) を実現するために協定を締結する。

2016年3月28日

(A) 日本 一般社団法人くらしのサーチセンター

(B) ベトナム貿易大学

### 第1条

両締結者は日越間における互恵、平等の経済、文化の交流促進の一環として CSR に関する研修交流を時宜に応じて実施する。

### 第2条

AはBの求めに応じて日本企業の CSR 活動を紹介する。

### 第3条

AはBのCSR研修による成果がベトナム学生の雇用関係促進にも資するよう努力する。

レティウトウ副学長から記念品を贈られる工藤副会長 (2016.7.18)



## ベトナム外国貿易大学 (FTU – Foreign Trade University) 概要

1. 設立 1960年

2. 所在地 ハノイ、ホーチミン、ハロンにもキャンパスがある。

### 3. 特徴

- ・ベトナムでは有名大学の一つ
- ・入学試験の競争率は最も高い
- ・学生はアクティブで社会的評価が高い
- ・学生数1万8,000人 女子学生が75%

### 4. 学部

外国貿易経済	経営管理	社会科学と人間学
ビジネス英語	基本的な基礎経済学	

### 5. 部門 (専門研修)

フランス語	中国語	ロシア語	日本語
-------	-----	------	-----

### 6. 部門

トレーニング管理	政治教育	IT 部門
学術研究	管理と金融	インサービストレーニング
国際関係	言語研究所	大学院研究
人事	図書館	

### 7. 国際関係

FTU は、UNDP などの国際機関と関係がある。

JICA、青年海外協力隊 (日本) ; VIA、ELI、ALI、REI (USA) ; VVOB (ベルギー) ; WUSC (カナダ) ; OSB (オーストラリア)。DANIDA (デンマーク) ; SIF (シンガポール)、... 主に学者と教師の交流を行っている。

### 8. 大学との国際交流

FTU は、ハワイ大学、リバーサイドのカリフォルニア州立大学、バッファロー大学 (米国) などの多くの大学と関係がある。

大阪国際大学、東京経済大学、神戸流通科学大学 (日本) ; 国際ビジネスと経済学の Beijing 大学 (中国)。

トゥール大学 (フランス) ; バンコク大学 (タイ)。オールボー大学、コペンハーゲン・ビジネス・スクール (デンマーク) ; ケンブリッジ大学、バーミンガム大学 (英国)、などが挙げられる。

※ Foreign Trade University ホームページより抜粋

## CSR 研修に参加した貿易大学教職員・学生

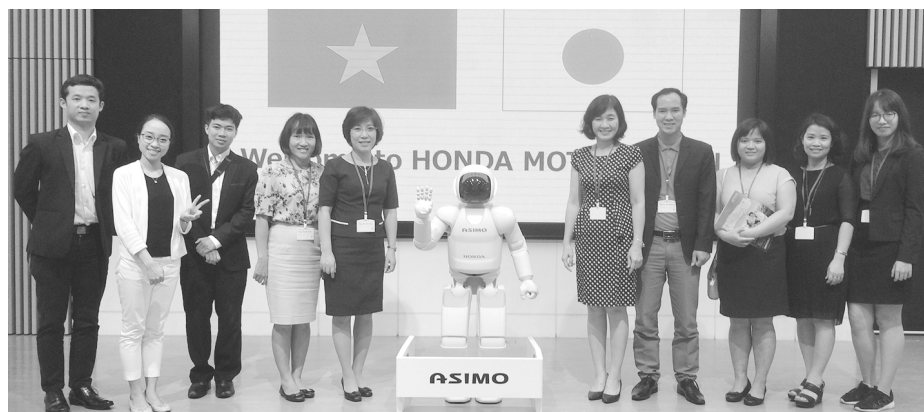
No	名前	性別	年齢	専門	資格	ベトナム語以外の言語
1	レ ティ トウ トウイ	女	45歳	経営管理	准教授、副学長	英語
2	チャン ティ トウ トウイ	女	43歳	日本語・経営学と統計学の理論	博士、学部長	英語 日本語
3	グエン ホン クアン	男	36歳	経営管理	博士、講師	英語
4	ヴ ティ ヒエン	女	39歳	国際貿易	博士、部長	英語
5	チャン ティ ミ ハイ	女	39歳	会計	修士、経理部常任副部長	英語
6	チャン チェウ リン	女	30歳	国際貿易	修士、職員	英語
7	グエン ドウック ズン	男	21歳	ビジネス日本語	3年生	英語 日本語
8	ディン トウイ ホン	女	22歳	ビジネス日本語	4年生	英語 日本語
9	チェトウ チャン	女	18歳	経営管理	1年生	英語 日本語

### 研修団の特徴

- ・9名中7名が女性
- ・大学教職員（副学長含む）と学生の混成
- ・副学長（45歳）をはじめメンバーは若い人で構成されている



トヨタ元町工場視察  
(2016.7.19)



本田技研工業 CSR 研修  
ASIMO 視察  
(2016.7.21)

## 研修日程

- ・研修期間は日曜、祝日も含む実質4日というハードなものだった。
- ・研修内容はエネルギー・環境（電力・ガス）、運輸（鉄道・航空）、自動車メーカー、総合企業という多業にわたるものだった。
- ・観光、ショッピングの時間はほとんど持てなかった。

2016年7月16日（土）～22日（金）

7月16日（土）0：05 ハノイ発—VN330便

7月17日（日）6：40 関西空港着  
宿 泊 中之島プラザ

第1日 7月18日（月）午前中 ホテルにて休息、スケジュール打ち合わせ  
午後 関西電力、大阪ガス CSR 研修  
夕 ホテルにて来日歓迎会

第2日 7月19日（火）午前中 新幹線で名古屋へ移動 車内で昼食  
午後 トヨタ会館視察  
トヨタ元町工場視察  
新幹線で東京へ移動  
宿 泊 KKR HOTEL TOKYO

第3日 7月20日（水）午前中 東日本旅客鉄道 CSR 研修  
午後 全日本空輸訪問 CSR 研修  
東京ガス訪問 CSR 研修

第4日 7月21日（木）午前中 日立製作所訪問 CSR 研修  
午後 本田技研工業 CSR 研修  
夕 歓送迎パーティー

第5日 7月22日（金）午前中 まとめの会議  
16:35 羽田空港発 VN385便  
20:00 ハノイ着

東日本旅客鉄道 CSR 研修（2016.7.20）



東京ガス CSR 研修（2016.7.20）



## 成果と展望

研修団の責任者、貿易大学副学長のレティトゥ トゥイさんは次のことを提案した。

1. 来年度から大学のカリキュラムに CSR を取り上げ、将来に備えて学生の教育に尽したい。講師については日本企業の専門家も検討する。
2. 来年度はベトナム企業も訪日させ CSR 研修を実現したい。  
当方から1年おきにしてはどうかと逆提案したが、是非実現したいという。その形態は日本企業への訪問による研修ではなく一定の場所を設定し、ベトナム企業の参席による研修会にすることを検討することにした。  
また、ベトナム国内における企業研修会に日本からの講師派遣の要請もあった(前記参照)。
3. 当センターが発刊している「CSR 活動実例集」を参考にしてベトナムにおいても発刊を企画したい。その際には日本の協力を希望する。
4. ベトナム企業の CSR 活動を大学の調査により評価するにあたり、評価基準をどのようにすべきか教示願いたい。  
当方としては「CSR 活動の意義と重要性」―「企業の具体的な取り組むべき課題」(後記参照)を参考にすることを勧めた。
5. 貿易大学としては今回の CSR 研修で修得した成果を熱のさめないうちに早期に実践したいという強い意向が示された。

全日空 CSR 研修 (2016.7.20)



日立製作所 CSR 研修 (2016.7.21)



## ベトナム貿易大学 CSR 研修団来日歓送迎会

2016年7月21日（木）18：00～19：30

於：KKR HOTEL TOKYO 11F 丹頂の間

司 会 青嶋 扶美【ANA ビジネスソリューション(株)】

研修団の皆さんはまばゆいばかりのアオザイ姿でご登場した。

滞日期間は短く、研修日程、内容がハードであったにもかかわらず、ご一行は元気いっばい意気軒昂だった。

研修内容を吸収して満足感にあふれているようにおもえた。

ベトナムの歌「手を繋いで輪を作ろう (noi vong tay lon)」を全員でご披露いただいた。

そこには新興国にふさわしく国際交流に前向きな若い息吹きがほとばしっていた。

### 参加者

○ベトナム貿易大学 CSR 研修団（別紙）

○ご来賓（敬称略）

勝田 実 電気事業連合会 業務部長

矢野 義博 一般社団法人日本自動車工業会 理事・事務局長

（代理 岩崎 健 一般社団法人日本自動車工業会  
総務統括部 企画・調査担当 グループ長

志賀 隆宏 一般社団法人日本自動車工業会 国際統括部

○参加者名簿（敬称略：順不同）

川野 繁 飛鳥交通(株) 代表取締役社長

／（一社）東京ハイヤー・タクシー協会 副会長

工藤 芳郎 （一社）くらしのリサーチセンター 副会長・専務理事

日野 裕司 全日本空輸(株) 総務部 総務チームリーダー

深尾 修 本田技研工業(株) 渉外部 担当部長

辻村 明英 東京電力エナジーパートナー(株)

CS 推進室兼カスタマーセンター業務部 副室長

菊本 哲雄 東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 事業戦略部 総括課 主査

飛田恵理子 特定非営利活動法人 東京都地域婦人団体連盟 理事

畑元 祐尚 東京ガス(株) リビング本部 お客さまサービス部 お客さま相談室 課長

岡田 博生 中部電力(株) 東京支社 業務グループ 課長

中村 徹 東北電力(株) 東京支社 業務課長

野口 貴史 ANA ビジネスソリューション(株) 営業本部 人材・研修事業部 部長

青嶋 扶美 ANA ビジネスソリューション(株) 営業本部 人材・研修事業部 研修業務チーム

津川 清 電気技術開発(株) 取締役 国際部長

瀬谷 光昭 電気技術開発(株) 国際部 担当部長

柳沢 美里 電気技術開発(株) 国際部 主事補

○通訳

レ ニュー ゴック ハリウッド大学院大学

グエン スアン コア 大阪大学 大学院生



## レティトゥー副学長の要請と提案（歓送迎会挨拶）

来日前の関心事として、まず CSR の精神がありました。CSR を推進する企業のモチベーションというのは、企業自身のチャレンジ精神から来るものなのか、それとも政府から義務付けられることで生まれるのか。

今回の研修を通じ、CSR を成功させるためには経営者の熱意が不可欠であることを学びました。企業によって方針ややり方は違いますが、共通して重要なことは、企業の経営理念に CSR の精神を包摂しなければならないということです。どの企業においても CSR 活動は常に、顧客、人間、環境を大事に考えて取り組まれています。

二点目の関心事は、CSR が産業界において今後どのように展開され、教育されていくのか、企業における CSR の運営体制でした。

これについては、どの企業においても体系的に実施されており、定期的に CSR 報告書も公開されています。また、企業の CSR に対する行政や一般からの評価基準も確立されています。

提言として、今後ベトナムで CSR 推進活動を行っていく上で、日本にさまざまな協力を仰ぎたく思います。

具体的には、今回のような訪日研修を、来年以降も継続していきたいと考えています。リサーチセンターにおかれましては、今回同様の支援体制で協力いただきたい。

メンバーについては、教職員と学生以外にも、CSR に積極的なベトナムの企業も加えたいと思っています。彼らこそベトナムで CSR を推進する中核的存在になると考えていますので。

費用に関しては、今回同様、航空券などは貿易大学が負担し、日本での滞在費や企業との折衝をリサーチセンターにお願いしたいと思います。それから、研修においてはより理解を深めるために、講演にともなう質疑応答の時間を増やしていきたいと思っています。

また、ベトナムで CSR を宣伝、啓蒙するために、『CSR 活動事例集』のような書籍の出版を考えています。それに係る出版や執筆などについてもご協力いただきたいと思っています。



歓送迎会で挨拶するトゥイ副学長

## ご挨拶

このたびの CSR 研修団の来日は「現代社会において健全な市場経済社会を構築するためには CSR 活動が必要である」とのくらしのResearchセンターとベトナム貿易大学との共通認識の下に実現されたものであります。

また今回の研修に関してはいくつかの特徴がありました。

第1は CSR 研修を目的とする諸国との交流は異例だということです。

第2に 研修メンバーがベトナムの名門大学である貿易大学からの女性を中心に派遣されたことです。

第3に 研修日程が実質5日間というハードなものだったことです。

しかもこの間日曜、祝日も含まれており研修団を受け入れていただいた企業の皆さまには敬意を表します。

第4に 研修内容が多岐にわたったことです。

エネルギー事業（関西電力、東京ガス、大阪ガス）、運輸事業（JR東日本、全日本空輸）、自動車メーカー（トヨタ自動車、本田技研工業）、総合企業（日立製作所）の皆さまはルーティンワークとなっている CSR 活動を簡潔平易にプレゼンしていただきました。

第5に この事業に要した費用は会員企業、関係団体のご尽力により賄うことができました。あらためて感謝申し上げます。

さて CSR 活動を海外にも普及したいという先駆的役割を志向するこの事業は必ず近い将来において実を結ぶものと確信するものです。

来日されたベトナム貿易大学の皆さまの今後のご尽力により大きな成果が得られることを期待しています。



工藤副会長の挨拶

2016年7月21日

ベトナム貿易大学 CSR 研修団歓迎実行委員会を代表して

工藤 芳郎

「手を繋いで輪を作ろう (noi vong tay lon)」を  
歌いかける貿易大学の皆さん



歓送迎会での記念撮影



## CSR 関連資料

### 企業の社会的責任と CSR について考える

今年7月に来日したベトナム貿易大学 CSR 研修団から日本における CSR 概念の歴史について質問があった。

この際あらためて考えてみたい。

端的に言えば、企業の社会的責任と CSR (Corporate Social Responsibility) とは歴史的淵源を異にするとと思われる。

企業の社会的責任についてみると、日本近代の代表的な実業家渋沢栄一 (1840-1931) が説いた商人たるもの「片手に算盤、片手に論語」(論語算盤説) という企業理念がみられる。この思想はアダム・スミスの「道徳感情論」(1759年) と軌を一にするものと言える。

その他わが国では電力事業の社会的責任を主張した東京電力の木川田一隆、企業の社会的責任を経済理念とされた松下幸之助、本田宗一郎など多数いる。

また米国では「営利を目的とする事業は滅びるが、奉仕を目的とする事業は栄える」としたヘンリー・フォードも企業を持続的に発展させた。

これらはいずれも資本主義、発展史の中で企業の持続的発展と健全な自由主義経済の構築を目指した教訓である。

さらに日本の精神文化・美学としては資本主義経済社会以前から「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」(最澄) という利他の心が尊敬されて来たことも忘れてはなるまい。

さて CSR 活動が強調され始められた経緯を振り返ってみたい。

東西の冷戦時代の終焉とされたのは1989年。この時代ではかつての社会主義経済体制は否定され、自由主義経済体制の優位性が強調された。米国を中心に新自由主義 (ネオコン: neo-conservatism) が台頭した。あらゆる規制の緩和が進められた。英国ではサッチャーリズムが横行した。そこでは公的資産が

強力な民間企業のもものとされた。強欲な資本のグローバルな展開が始まった。大国中国も市場経済を導入した。国際的に激しい市場競争となった。

こうした世界的経済情勢が変化する中で、これを自由拡大すれば弱肉強食社会の到来必至とみた世界の有識者たちは CSR を提唱したと言える。

つまり CSR の必要性は1900年代初頭に始まり、2000年代に普及されていく。

そのリーダーとなったのは EU 諸国における\* ISO (International Organization for Standardization) の設定による「基準化」にみられる。

現代社会における社会的責任論は企業だけではなく団体にも、公務員、政治家にも求められている。CSR は SR へと進展されなければならない。

以上にみたように CSR はヨーロッパ発の経営理念であり、「基準・規格・タイプ」を特徴としている。

一方社会的責任論は日本発であり、モラルタイプを特徴としている。

その典型例は「経団連憲章」にみられる。

---

\*国際標準化機構 (こくさいひょうじゅんかきこう、英: International Organization for Standardization)、略称 ISO (アイエスオー、イツ、アイツ) は、国際的な標準である国際規格を策定するための非政府組織。スイスのジュネーヴに本部を置き、スイス民法による非営利法人である。国際標準の世界最大のボランティアな開発組織であり、国家間に共通な標準を提供することによって、世界の貿易を促進する。ほぼ2万ある規格は、工業製品や技術から、食品安全、農業、医療までの全ての分野をカバーしている。

## くらしのリサーチセンターの CSR に関する調査・研究 実績

### 1. < CSR 研究交流会 > (2009年開催～)

#### ★第1回 (第168回くらしと産業に関する講演会合同開催)

日 程 2008年8月29日

テ ー マ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」

報 告 者 嶋 誠治氏 [東日本旅客鉄道株式会社経営企画部次長]

長谷川 雅世氏 [トヨタ自動車株式会社 CSR・環境部 CSR 室長]

#### ★第2回 (第169回くらしと産業に関する講演会合同開催)

日 程 2008年9月26日

テ ー マ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」

報 告 者 堀内聖巨氏 [東京ガス株式会社広報部 CSR 室主任]

山下 隆氏 [株式会社日立製作所 電力・電機業務本部

コンプライアンス本部 コンプライア

ンス部部長]

#### ★第3回 (第172回くらしと産業に関する講演会合同開催)

日 程 2008年12月2日

テ ー マ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」

報 告 者 見学信一郎氏 [東京電力株式会社企画部経営調査グループマネージャー]

渡邊伊知郎氏 [全日本空輸(株) CSR 推進室環境・社会貢献部主席部員]

#### ★第4回 (第175回くらしと産業に関する講演会合同開催)

日 程 2009年1月29日

テ ー マ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」

報 告 者 内藤修久氏 [中部電力(株) 環境・立地部環境部

環境経営グループスタッフ副長]

村田 浩氏 [本田技研工業株式会社 法務部 CSR 室長]

#### ★第5回 (第176回くらしと産業に関する講演会合同開催)

日 程 2009年2月26日

テ ー マ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」

報 告 者 富岡洋光氏 [関西電力株式会社企画室 CSR 推進グループマネージャー]

赤松生也氏 [株式会社東芝 CSR 本部 CSR 推進室参事]

#### ★第6回

日 程 2009年4月14日

テーマ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」  
報告者 田畑真理氏 [大阪ガス(株) 環境部 企画チーム副課長]  
小林隆典氏 [東北電力(株) 広報・地域交流部  
エネルギー広報・地域交流グループ副長]

★第7回

日 程 2009年5月11日

【第1部】

テーマ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-「わが社の CSR 活動-」  
報告者 牛島 勇氏 [九州電力(株)総務部 CSR グループ副長]

【第2部】

テーマ 「「CSR」「SR」に関する国際潮流」  
講 師 平塚敦之氏 [経済産業省経済産業政策局企業行動課企画官]

★第8回

日 程 2009年6月18日

テーマ 「問われる企業の社会的責任」-消費者行政一元化と CSR-  
講 師 佐野真理子氏 [主婦連合会 事務局長]

★第9回

日 程 2009年7月16日

テーマ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」  
報告者 光地富子氏 [北陸電力(株)経営企画部 経営計画チーム 兼  
CSR 推進チーム 課長代理]

黒坂洋行氏 [北海道電力(株) コーポレートコミュニケーション本部  
法務・企業行動室 企業行動グループグループリーダー]

★第10回

日 程 2009年8月25日

テーマ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-わが社の CSR 活動-」  
報告者 小西秀和氏 [四国電力(株)総合企画室 経営企画部調査グループ 副長]  
塩野和志氏 [新日本石油(株) CSR 推進部 CSR 推進グループマネージャー]

★第11回 (第92回都市と交通問題研究会合同開催)

日 程 2009年9月14日

【第1部】

テーマ 「生活者・消費者の信頼獲得をめざす企業活動-「わが社の CSR 活動-」  
報告者 坂本織也氏 [東京急行電鉄(株)鉄道事業本部 事業統括部 事業推進課長]

**【第2部】**

テーマ 「CSR活動の重要性」

講師 井出亜夫氏 [日本大学大学院 ビジネス・スクール研究科 科長 (教授)]

★第12回 (第94回都市と交通問題研究会合同開催)

日程 2009年10月20日

テーマ 「地域活性化と企業の役割」

講師 野田耕一氏 [経済産業省 経済産業政策局

地域産業グループ 立地環境整備課長]

★第13回

日程 2009年12月14日

テーマ 「中国における CSR 取組みの動向」 - 「第5回日中韓経営学会」に参加して-

講師 平塚敦之氏 [経済産業省 経済産業政策局 企業行動課 企画官]

★第14回

日程 2010年2月12日

**【第1部】**

テーマ 「わが社の CSR 活動」

講師 松尾敏行氏 [㈱リコー 社会環境本部 環境コミュニケーション推進室  
スペシャリスト 『リコーグループ環境報告書2010』編集長]

**【第2部】**

テーマ 「ISO 標準化の動向」

講師 濱坂 隆氏 [経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課  
戦略担当課長補佐]

★第15回 (第1回日中間 CSR 研究交流会)

日程 2010年4月15日

テーマ 「日中間の経済交流」 - 日中間における CSR 活動の定着を目指して -

講師 清川佑二氏 [(財)日中経済協会 理事長]

発表者 (中国)

金 順英 上海市经济管理幹部学院 研究員

范 敏華 上海致能科技有限公司 代表取締役

蘇 震 上海致尊産権經紀有限公司 常務副總經理

★第16回

日程 2010年5月13日

テーマ 「わが社の CSR 活動」



- 講師 澁谷 隆 氏 [株富士ゼロックス CSR 部長]
- ★第17回 (第100回都市と交通問題研究会合同開催)
- 日時 2010年6月25日
- テーマ① 「交通基本法について (地域公共交通の活性化・再生も含む)」
- 講師 関口幸一 氏 [国土交通省 総合政策局 次長]
- テーマ② 「わが社の CSR 活動」
- 講師 末廣好男 氏 [小田急電鉄 (株) CSR・広報部 課長]
- ★第18回
- 日時 2010年7月20日
- テーマ 「労働組合からみた CSR」
- 講師 逢見直人 氏 [日本労働組合総連合会 副事務局長]
- ★第19回 (海外事情調査団)
- 日時 2010年9月12日～16日
- テーマ 「発展する中国経済社会の現状と課題」
- ★第20回 (第15回関西講演会開催)
- 日時 2010年10月14日
- テーマ (社) ぐらしのリサーチセンターの「CSR 研究普及事業」について
- 講師 工藤芳郎 [(社) ぐらしのリサーチセンター副会長・専務理事]
- テーマ 「関西における CSR 活動普及推進について」
- 講師 藤村啓介 氏 [経済産業省 経済産業政策局 企業行動課 課長補佐]
- テーマ 「わが社の CSR 活動」
- 講師 田畑真理 氏 [大阪ガス(株) CSR・環境部 CSR室 室長]
- 講師 北村淳一郎氏 [関西電力(株)企画室 CSR 推進グループ チーフマネージャー]
- ★第21回
- 日時 2010年11月4日
- テーマ 「わが社の CSR 活動」
- 講師 中島伸吾 氏 [東邦ガス(株)企画部 環境エネルギー政策グループ 課長]
- ★第22回
- 日時 2010年12月9日
- テーマ 「「ISO26000」の動向と課題」
- 講師 田場盛裕 氏 [経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課課長]
- テーマ 「わが社の CSR 活動」
- 講師 古垣内 聡 氏 [キリンビール(株) お客様センター 所長代理]

★第23回

日 時 2010年12月9日  
テーマ 「[ISO26000]の動向と課題」  
講 師 田場盛裕 氏 [経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課課長]

★第24回

日 時 2011年2月22日  
テーマ 「食品産業とCSR活動の重要性」  
講 師 日和佐信子氏 [雪印メグミルク(株)社外取締役]

★第25回

日 時 2011年3月9日  
テーマ 「わが社のCSR活動」  
講 師 藤口英治 氏 [ヤマト運輸(株) CSR推進部 部長]

★第26回 CSR 研究交流会 (第196回開催)

第23回通常総会記念講演会・第146回環境セミナー合同開催)

日 時 2011年5月23日  
テーマ 「東日本大震災・日本再生－新たなライフスタイル構築めざす－」  
講 師 畠 信彦 氏 [ジャーナリスト]  
テーマ 「夏期の電力需給対策」  
講 師 三田紀之 氏 [資源エネルギー庁 電力・ガス事業部  
政策課長 (併任 熱供給産業室長)]

テーマ 「被災地の復旧・再生状況と展望」  
安達健祐 氏 [経済産業省 経済産業政策局長]

テーマ 「被災地の復旧・再生状況と展望」  
関口幸一 氏 [国土交通省 鉄道局 次長]

テーマ 「被災地からの訴え」  
発表者 佐々木昌二 氏 [(社)宮城県タクシー協会 会長]

テーマ 「支援・協力活動報告」  
発表者 五月女 章 氏 [東京ガス(株) お客さま相談室 室長]

テーマ 「支援・協力活動報告」  
発表者 秋元洋子 氏 [特定非営利活動法人 東京地域婦人団体連盟 事務局長]

テーマ 「支援・協力活動報告」  
発表者 秋山利裕 氏 [(社)東京乗用旅客自動車協会 広報委員長]

テーマ 「立ち上がる産業界」

発表者 猿山 彰 氏 [東日本旅客鉄道(株) 鉄道事業本部  
サービス品質改革部 CS推進グループ 課長]

テーマ 「立ち上がる産業界」

発表者 和田初夫 氏 [トヨタ自動車(株) お客さま関連部 企画総括室  
渉外 G プロフェッショナルパートナー]

テーマ 「立ち上がる産業界」

発表者 佐藤雅俊 氏 [(株)日立製作所 電力システム社 経営管理本部 本部長付]

★第27回

日 時 2011年7月6日

テーマ 「行政からみた「災害時における企業の役割」」

講師 平塚敦之 氏 [経済産業省 経済産業政策局 企業会計室長、CSR担当]

テーマ 「東日本大震災に伴う復旧、再生に関する支援・協力活動状況」

講師 江里朝範 氏 [九州電力(株) 東京支社 営業グループ副長]

★第28回

日 時 2011年9月27日

テーマ 「東日本大震災に関する支援・協力活動」

講師 浜岡伸夫 氏 [(株)日立製作所 CSR本部 CSR推進部 主任技師]

★第29回

日 時 2011年10月11日

テーマ 「東日本大震災に関する支援・協力活動」

講師 鈴木 等 氏 [NEC CSR推進部長 兼 CS推進室長 兼 社会貢献室長]

講師 近藤 聡 氏 [中部電力(株) 東京支社 業務グループ 課長]

★第30回

日 時 2012年8月7日

テーマ 「現代社会における CSR 活動の意義」

講師 井出亜夫氏 [日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科 教授]

★第31回

日 時 2014年3月24日

テーマ 「わが社の CSR 活動報告」

報告者 泰 則明氏 [(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部 CSR推進部 部長代理]  
本室匡一氏 [東日本旅客鉄道(株)  
鉄道事業本部サービス品質改革部課長]

## 2. 海外事情調査

年	テーマ及び視察先
1990年	企業の文化支援と社会的貢献に関する米国調査団
1991年	企業の文化支援と社会的貢献に関する欧州事情調査団
1992年	企業の社会的貢献に関する米国事情調査団
1994年	CS 経営に関する米国事情調査団
1995年	CS 経営に関する欧州事情調査団
2003年	競争激化時代における企業の社会的責任に関する米国事情調査団
2013年	ベトナムにおける経済（エネルギー・交通を中心）事情調査
2015年	ベトナム「CSR 研修セミナー」

## 3. CSR 活動関連出版物

企業の社会貢献活動 実例集	1993年 8月
CS 活動実例集	1996年 2月
大競争時代における企業の社会的責任への取組み -CS活動実例集-	2004年 2月
CSR 活動実例集-企業の CSR 活動について-	2008年 12月
CSR 活動実例集 2010年版	2010年 11月
CSR 活動実例集 2014年版	2014年 3月